

## I. 2022 年度の概要

### 1. 事業について

- (1) 公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団は、「生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究を奨励することにより、この分野の学術の振興を図り、もって、人類の健康と福祉の増進に寄与する」ことを目的として、2010 年 10 月 1 日に公益財団法人へ移行し、定款に定める事業を開始した。この事業報告及び決算報告書は、2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの期間についての当法人の事業活動を取りまとめたものである。
- (2) 2022 年度は、第一三共株式会社からの寄附金収入、基本財産の運用収入並びに前年度からの繰越金を活用し、以下のとおり、公益目的事業を助成事業（公 1）並びに研究業績褒賞事業（公 2）に区分して実施した。

助成事業 （公 1）	1. 研究助成 （1）研究助成 （2）PI セットアップ研究助成 2. 海外共同研究支援助成（本年度休止） 3. 研究会・シンポジウム開催助成（本年度休止） 4. 海外留学奨学研究助成
研究業績褒賞事業 （公 2）	1. 研究業績褒賞（第 20 回高峰記念第一三共賞） 2. 褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（高峰カンファレンス）（本年度休止）

- (3) 本年度は、隔年度実施の助成事業の内、PI セットアップ研究助成を実施し、海外共同研究支援助成及び研究会・シンポジウム開催助成は休止とした。

### 2. その他について

- (1) 指定寄附金収入  
第一三共株式会社より 2022 年 4 月 8 日、指定寄附金として 1 億 5 千 5 百万円を受領した。
- (2) 主要事業活動報告
- ① 2022 年 4 月 22 日の第 25 回選考委員会にて、2022 年度 PI セットアップ研究助成の候補者並びに第 20 回高峰記念第一三共賞二次候補者の選考を行った。
  - ② 2022 年 5 月 20 日の第 20 回高峰記念第一三共賞審査委員会にて、同賞の最終候補者を決定した。
  - ③ 2022 年 5 月 31 日の第 45 回理事会にて、2021 年度の事業報告及び決算報告書、2022 年度 PI セットアップ研究助成者の決定、第 20 回高峰記念第一三共賞受賞者の決定、任期満了に伴う選考委員改選、褒賞事業の見直し、助成（褒賞）候補者推薦依頼先選定の事務局への移管、「評議員会の日時及び場所並びに目的である事項」の各件について審議され、承認された。

- ④ 2022年6月15日の第16回評議員会にて、2021年度決算報告、任期満了に伴う理事改選、任期満了に伴う評議員・監事改選、褒賞事業の見直しの各件について審議され、褒賞事業の見直しの件は継続協議となったが他の案件はすべて承認された。
- ⑤ 2022年6月16日、内閣府に2021年度事業報告等を提出した。
- ⑥ 2022年6月20日のみなし決議による第46回理事会にて、理事長・常務理事を選定した。
- ⑦ 2022年7月19日、内閣府に役員・評議員変更の届出を提出した。
- ⑧ 2022年10月19日の第26回選考委員会にて、2022年度研究助成候補者及び2023年度海外留学奨学研究助成候補者の選考を行った。内、2023年度海外留学奨学研究助成については、3名が辞退したため選考委員会にて承認された手続きに則り、常務理事が面接を実施し、最終候補者（5名）を選出した。
- ⑨ 2022年12月12日の第47回理事会にて、2022年度研究助成対象者決定、2023年度海外留学奨学研究助成対象者決定、寄附金増加に伴う事業拡大、2023年度事業計画・収支予算・資金調達及び設備投資の見込み、2023年度事業推薦・応募要領、高峰記念第一三共賞審査委員会委員選任、選考委員選任の各件について審議され、承認された。
- ⑩ 2022年12月21日、内閣府に2023年度事業計画書等を提出した。

### (3) 人事関係

- ① 2023年3月31日現在の関係者の人員数は、役員及び評議員の任期満了に伴う改選が行われ、理事15名（前期比1名減）、監事2名、評議員8名（前期比2名減）。選考委員は、任期満了に伴う改選および次年度事業拡大に伴う選任が行われ22名（前期比2名増加）。研究業績褒賞に係る審査委員（高峰記念第一三共賞審査委員）は、2023年度任期満了予定者が3名発生することから審査体制の円滑な運営のため選任が行われ、10名（前期比2名増）。顧問は5名、職員は2名。
- ② 理事長について、みなし決議による第46回理事会（2022年6月20日）において、眞鍋淳理事が選定され6月20日付で重任した。同時に、常務理事について高橋正明理事が選定され重任した。
- ③ 理事について、任期満了に伴う改選が行われ、6月15日付で、板倉光夫氏、今井潤氏、堅田利明氏、辻省次氏、中釜斉氏が退任し、新たに選任された稲垣暢也氏、小室一成氏、福井宣規氏、吉田稔氏を含む15名が就任した。
- ④ 評議員について、任期満了に伴う改選が行われ、6月15日付で、岸本忠三氏、黒岩常祥氏、齋藤英彦氏、笹月健彦氏、猿田享男氏、永井良三氏が退任し、新たに岡野栄之氏、堅田利明氏、辻省次氏、中釜斉氏を含む8名が就任した。
- ⑤ 選考委員について、任期満了に伴う改選が行われ、5月31日付で、稲垣暢也氏、大谷浩氏、小室一成氏、福井宣規氏、吉田稔氏が退任し、新たに塩島一朗氏、豊島文子氏、東原和成氏、馬場義裕氏、矢部大介氏を含む20名が就任した。また、次年度事業拡大に伴う選任が行われ、12月12日付で、新たに大栗博毅氏、藤本ゆかり氏が就任した。

- ⑥ 高峰記念第一三共賞審査委員について、2023 年度任期満了予定者が 3 名発生することから審査体制の円滑な運営のため選任が行われ、12 月 12 日付で、新たに熊ノ郷淳氏、吉田稔氏の 2 名が就任した。

(4) その他

2022 年度は新型コロナウイルス感染防止のため、理事会については第 47 回(12/12)を Web 会議にて実施した。選考委員会については第 25 回(4/22)をみなし決議にて実施した。

また、研究褒賞事業である第 20 回高峰記念第一三共賞贈呈式(12/12)を延期し、次年度第 21 回高峰記念第一三共賞贈呈式と合同で開催することとした。

なお、本年度から次年度事業内容を審議する理事会(例年 12 月頃)と次年度予算審議の理事会(例年 2 月頃)を統合し、年 3 回開催していた理事会を 2 回開催(例年 6 月・12 月頃)へと変更した。

## II. 2022 年度事業報告

### 1. 事業の総括

	事業	金額	備考
助成事業 (公1)	1. 研究助成 (1) 研究助成 (定款第4条(1))	52,000 千円	@200 万円×26 件*1
	(2) PI セットアップ研究助成 (定款第4条(1))	18,000 千円	@300 万円×6 件*1
	2. 海外共同研究支援助成 (定款第4条(2))	—千円	@50 万円/件 (本年度休止)
	3. 研究会・シンポジウム開催助成 (定款第4条(3))	—千円	@50 万円/件 (本年度休止)
	4. 海外留学奨学研究助成 (定款第4条(4))	47,800 千円	2020 年度 @180 万円×1 件*2 2021 年度 @300 万円×3 件 @400 万円×1 件*3 2022 年度 @550 万円×6 件*4
	その他助成事業費	11,458 千円	印刷製本費、諸謝金、 賃借料、旅費交通費等
	助成事業計	129,258 千円	
研究業績褒賞事業 (公2)	1. 研究業績褒賞 (定款第4条(5))	11,910 千円	第20回高峰記念第一三共賞
	2. 研究業績褒賞受賞研究テーマに 関連するシンポジウム開催 (定款第4条(5))	—千円	高峰カンファレンス (本年度休止)
	その他研究業績褒賞事業費	4,765 千円	会議費、旅費交通費、 諸謝金、委託費等
	研究業績褒賞事業計	16,675 千円	
	合計	145,933 千円	

\*1 新型コロナの影響による 2021 年度予算未達分と本年度予算未達分を考慮して、研究助成と PI セットアップ研究助成の採択件数をそれぞれ 6 件と 1 件増枠した (第 45・47 回理事会)。

\*2 新型コロナの影響により途中帰国した 1 名の留学再開に伴い、留保していた 2 年度分助成金の交付を行った。

\*3 他財団からの助成金との重複受給を可能にするために助成金交付金額を変更した。

\*4 2022 年度から助成金交付額を 600 万円/件から 1,100 万円/件へ増額した (第 38 回理事会)。また、2020 年度予算未達分にて採択件数を 1 件増枠した (第 42 回理事会)。

## 2. 助成事業（公1）

### 2.1 研究助成（定款第4条(1)）

#### (1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究に従事する研究者に対して、助成を行うことにより、学術及び科学技術の振興を図ることを目的としている。

#### (2) プログラム：研究助成はふたつのプログラムよりなる。

##### ① 研究助成

##### ② PIセットアップ研究助成

#### (3) 募集対象

##### ① 研究助成

日本国内在住の研究者

これまで50歳未満という年齢制限を設けていたが、今年度から年齢制限を撤廃することが第43回理事会で承認された（2021年12月3日）。

##### ② PIセットアップ研究助成

(a) 研究責任者（PI）として、2020年度、2021年度に、原則、研究機関間の移動を伴って日本国内で新たに研究ユニットを立ち上げた、あるいは2022年度に立ち上げ予定の研究者。申請時点で海外滞在者を含む。

(b) 研究ユニット立ち上げに必要な研究用汎用機器及び備品類の購入可

(c) 当法人の他種助成金と重複して助成を受けることが可

(d) 45歳以下（2022年4月1日現在）の研究者

#### (4) 募集規模

##### ① 研究助成

(a) 1件当たり200万円（助成期間は、2022年度以降2年間）

(b) 採択件数：新規26件（うち5件を女性優先枠）

新規20件程度で募集したが、新型コロナの影響による2021年度予算未達分と本年度見込まれる予算未達分を考慮して、採択件数を6件増の26件とすることが第47回理事会で承認された（2022年12月12日）。

##### ② PIセットアップ研究助成

(a) 1件当たり300万円（助成期間は、2022年度以降3年間）

(b) 採択件数：新規6件（うち1件を女性優先枠）

新規5件程度で募集したが、新型コロナの影響による2021年度予算未達分を考慮して、採択件数を1件増の6件とすることが第45回理事会で承認された（2022年5月31日）。

#### (5) 募集方法

当法人ホームページにて応募要領を掲載し、理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問及び褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）宛にポスター等送付し募集する。

## (6) 応募方法

- ① 理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問及び褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）を推薦者として、応募要領、応募者選定ガイドライン、所定の推薦書を送付する。
- ② 応募者は、上述の推薦者に推薦を依頼する。
- ③ 推薦者は、応募者の中から応募者選定のためのガイドラインに基づき、原則1名を公正かつ適正に選定する。
- ④ 応募者は推薦書を取得後、当法人ホームページの助成 Web 登録システムを通じて、推薦書及び申請書等をデータ送信する。送信された申請書類を当財団にて確認後、申請者に申請を受付けた旨の連絡を行い、受付番号を交付する。
- ⑤ 応募期間
  - (a) 研究助成：2022年6月1日～7月31日
  - (b) PI セットアップ研究助成：2022年1月4日～2月20日
- ⑥ 応募件数
  - (a) 研究助成：192件
  - (b) PI セットアップ研究助成：67件

## (7) 選考方法

- ① 研究助成

第26回選考委員会による選考結果をもとに、第47回理事会にて26名の助成者を決定した。  
(附属明細書 [資料 - 1]：2022年度当該助成採択者参照)
- ② PI セットアップ研究助成

第25回選考委員会による選考結果をもとに、第45回理事会にて6名の助成者を決定した。  
(附属明細書 [資料 - 2]：2022年度当該助成採択者参照)

## (8) 助成金の交付

- ① 交付方法：原則、所属機関の研究奨学金口座を通じて交付する。
- ② 交付時期
  - (a) 研究助成：2023年1月20日～2月10日に一括交付（2年分200万円）。
  - (b) PI セットアップ研究助成：2022年8月19日に一括交付（3年分300万円）。

## (9) 研究成果の報告

- ① 助成者は、助成期間終了後、研究報告書及び収支決算報告書を当法人に提出する。
- ② 助成者の氏名、研究テーマを当法人ホームページに掲載した。

## 2.2 海外共同研究支援助成（定款第4条(2)）（本年度休止）

### (1) 概要

海外の研究機関と共同研究を実施している研究者に助成を行う。

## 2.3 研究会・シンポジウム開催助成（定款第4条(3)）（本年度休止）

### (1) 概要

萌芽的な研究をテーマとした、国際シンポジウムを対象とする助成である。

## 2.4 海外留学奨学研究助成（定款第4条(4)）

### (1) 概要

海外の研究機関にて一定の期間研究に専念する優秀な若手研究者に奨学研究助成金を交付する。

### (2) 募集対象

- ① 原則、日本国籍を有し、生命科学分野を専攻する研究者で、年齢が35歳以下（2022年4月1日現在）の研究者。なお、6年制学部卒業者は37歳以下とする。
- ② 海外の大学等研究機関において、2年以上研究に従事することを計画している者

### (3) 募集規模

- ① 1件当たり1,100万円（助成期間は、2023年度以降2年間）
- ② 採択件数：5件

### (4) 募集方法：「研究助成」と同一

### (5) 応募方法

- ① 応募方法は「研究助成」と同一
- ② 応募期間：2022年6月1日～7月31日
- ③ 応募件数：51件

### (6) 選考方法

- ① 第26回選考委員会による選考結果をもとに、候補者集計表上位4名及び5位以下より女性の最上位1名（女性優先枠）の計5名を決定。その後、3名の辞退があったため、選考委員会にて承認された手続きに則り順次繰り上げ、上位者5名を候補者とした。
- ② 常務理事が候補者の面接を実施し、最終候補者（5名）とした。
- ③ 第47回理事会にて5名の助成者を決定した。  
（附属明細書 [資料 - 3]：2023年度当該助成採択者参照）

### (7) 助成金の交付

- ① 交付方法：助成対象者の指定する国内銀行口座を通じて交付する。
- ② 交付時期：年額550万円を毎年4月に交付する予定（2年間）。

### (8) 研究成果の報告：「研究助成」と同一

## 3. 研究業績褒賞事業（公2）

### 3.1 研究業績褒賞（定款第4条(5)）

#### (1) 概要

当事業は、生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究の進歩発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される研究者に対する褒賞を実施する。

#### (2) 褒賞名：第20回高峰記念第一三共賞

(3) 褒賞対象者

生命科学特に疾病の予防と治療に関する諸分野の基礎的研究並びに臨床への応用的研究において、その進歩・発展に顕著な功績をあげ、現在活発な研究活動を行っており、今後も一層の活躍が期待される日本国内在住の研究者

(4) 推薦方法

① 理事会において指定された全国の生命科学分野の大学大学院研究科長、研究機関長並びに当法人の評議員、理事、顧問、選考委員及び褒賞受賞者（高峰記念三共賞・高峰記念第一三共賞）に推薦を依頼した（但し、高峰記念第一三共賞審査委員は推薦者より除く）。

② 推薦期間：2022年1月4日～2月20日

③ 推薦件数：21件

(5) 選考方法

① 第一次選考

第25回選考委員会にて推薦候補者の選考を行い、5名の候補者が第二次候補者となった。

② 第二次候補者に対し、応募の意思の確認及び応募申請の要請を行った。

(6) 最終選考

① 第20回高峰記念第一三共賞審査委員会は、応募申請書及び選考委員会結果を参考に審査基準に基づき審議し、最終候補者を選定した。

② 第45回理事会において、褒賞受賞者を決定した。

③ 受賞者名、受賞研究テーマ、受賞理由をホームページにて掲載した。

(7) 受賞者及び受賞研究テーマ

① 受賞者：大野 博司博士（理化学研究所 生命医科学研究センター 副センター長）

② 受賞研究テーマ：「宿主-腸内細菌相互作用の統合的理解に関する研究」

(8) 褒賞の方法及び贈呈

① 副賞（1,000万円）を贈呈した。

② 贈呈式は新型コロナウイルス禍の影響により延期し、第21回高峰記念第一三共賞贈呈式と合同開催へ変更した。

3.2 研究業績褒賞受賞研究テーマに関連するシンポジウム開催（定款第4条(5)）

（本年度休止）

(1) 概要

高峰記念第一三共賞受賞者の業績を記念したシンポジウムを開催し、学术交流の場を提供することにより、研究の振興並びに若手研究者の養成を図る。

(2) 名称：高峰カンファレンス

以上



#### 4. 附属明細書

[資料-1]

### 2022年度研究助成採択者

26名（200万円交付）

（50音順、敬称略）

氏名	所属機関	研究課題名
明石 知子	横浜市立大学大学院生命医科学研究科	GPCR-薬剤複合体のネイティブ質量分析
阿部 一啓	名古屋大学大学院創薬科学研究科	構造・情報科学を駆使した新たな胃酸抑制剤の創生
安部 佳亮	筑波大学大学院医学医療系	腫瘍性濾胞における免疫環境の全容と病態に対する意義の解明
有村 奈利子	東北大学薬学部	認知症を引き起こす新たな血液由来因子の解明と新規治療方法の開発
石原 直忠	大阪大学大学院理学研究科	人工ミトコンドリア膜の融合反応系を用いたミトコンドリア活性化技術の構築
伊勢 渉	大阪大学感染症総合教育研究拠点	プラズマ細胞の長期生存ニッチへの移動と定着を支える新たな分子メカニズム
伊藤 能永	京都大学医生物学研究所	乾癬の新規マウスモデル確立と疾患原因自己抗原の同定
尾松 芳樹	大阪大学大学院生命機能研究科	骨髄造血幹細胞ニッチの線維化を伴う変質の分子機構の解明
笠原 朋子	東北大学大学院医学系研究科	筋エンハンサー調節を介した老化予防
斉藤 典子	がん研究会がん研究所	乳がんの晩期再発における核内ノンコーディングRNA複合体の機能解析
柴田 茂	帝京大学医学部	腎臓内分子カスケードと臓器連関に着目した食塩感受性の病態基盤の解明
白川 純	群馬大学生体調節研究所	多角的トップダウンアプローチによる代謝病態の解明
新中須 亮	愛媛大学学術支援センター	胚中心の戦略的活性化による抗SFTSウイルス高機能中和抗体誘導法の確立
鈴木 啓一郎	大阪大学大学院基礎工学研究科/高等共創研究院	ゲノム編集を用いた生体内バイオ薬産生技術の開発
田中 真司	東京大学医学部附属病院	神経免疫連関が急性腎障害を軽減するメカニズムの解明
中川 勇人	三重大学大学院医学系研究科	個別化医療を見据えた非アルコール性脂肪肝炎の病態解明と臨床応用
中西 祐貴	京都大学医学研究科	間質反応によるがん微小環境制御機構を標的とした大腸がんの新規治療戦略
原田 浩	京都大学大学院生命科学研究科	生体内で能動的に形成された低酸素微小環境が続る生体システムとその破綻による疾病
福原 茂朋	日本医科大学先端医学研究所	血管新生における内腔圧の新たな機能とその破綻がもたらす疾患の病態解明および治療法開発
藤田 幸	島根大学大学院医学系研究科	神経幹細胞分化過程におけるゲノム高次構造変化の解析
水関 健司	大阪公立大学大学院医学研究科	環境に応じた柔軟な行動変容を支える中脳ドーパミン信号の投射先・時間パターン特異的な役割の解明
森 啓二	東京農工大学大学院工学研究院	分子内redox型環化反応の環形成様式のスイッチングによる複素環構築法の開発
森 貴裕	東京大学大学院薬学系研究科	リンコサミド抗生物質の生合成に関わるPLP要求性酵素の構造機能解析
吉田 健一	国立がん研究センター研究所	正常血液細胞に蓄積する体細胞性変異の解析による造血器腫瘍発症機構の解明
吉田 陽子	順天堂大学大学院医学研究科	細胞老化を標的とした心房細動の発症機序の解明と治療法の開発
若林 朋子	東京大学大学院医学系研究科	脳インスリンシグナルによる神経変性疾患病因タンパク質の蓄積制御機構の解明

## [資料-2]

## 2022年度PIセットアップ研究助成採択者

6名（300万円交付）

（50音順、敬称略）

氏名	所属機関	研究課題名
石垣 和慶	理化学研究所生命医科学研究センター	ゲノム編集技術の応用によるヒト免疫細胞を用いたリスク多型機能評価実験の効率化
神谷 真子	東京大学大学院医学系研究科	がんの1細胞検出に資する多色多機能蛍光プローブ群の開発
小林 俊寛	東京大学医科学研究所幹細胞治療研究センター	哺乳類に共通する多能性維持基盤の解明
野島 孝之	九州大学生体防御医学研究所	非コードRNA発現をON/OFFにする転写終結機構の解明とその医学的応用
原 英樹	慶應義塾大学医学部	インフラマソームによる感染重症化機構の解明と阻害法の開発
藤田 幸	島根大学大学院医学系研究科	中枢神経回路の修復を促進する分子メカニズムの解明

## [資料-3]

## 2021年度海外留学奨学研究助成採択者

5名（300万円/年、2年交付）

（50音順、敬称略）

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
佐藤 浩央	群馬大学重粒子線医学推進機構 重粒子線医学研究センター Weill Cornell Medicine USA	抗腫瘍免疫反応を促進するがん細胞内分子経路の解明と、新規がん治療戦略への応用
祢津 昌広	山梨県立中央病院 ゲノム解析センター University of Alberta Canada	ホルモン産生性下垂体腫瘍モデルマウスを用いた、腫瘍増殖とホルモン産生の協調的制御機構の解明
山本 悠	大阪大学蛋白質研究所 Aarhus University Denmark	網膜から上丘への軸索投射における収束シナプス発達機構の解明
城森 啓宏	北海道大学大学院生命科学院 University of Minnesota USA	非クラスター型ボロシン様RiPPsの生合成における修飾酵素の探索と機能解析
鈴木 将貴	慶應義塾大学医学部 Harvard Medical School USA	腸内細菌D-アミノ酸による免疫活性化機構の解明

## 2022年度海外留学奨学研究助成採択者

6名（550万円/年、2年交付）

（50音順、敬称略）

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
加藤 裕之	東京大学医学部附属病院 Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School USA	遺伝子変異がもたらす肺癌の代謝・エピゲノムリモデリングの治療標的化
佐藤 和貴	筑波大学生存ダイナミクス研究センター Yale school of Medicine USA	相分離によるT細胞受容体のシグナル伝達機構の解明と腫瘍環境における制御性T細胞の人為的制御への応用
杉崎 陽一郎	神戸大学大学院医学研究科 Columbia University Medical Center USA	人工知能と血管内イメージングによる不安定プラークの特徴の解明と急性心筋梗塞発症予測モデルの開発
竹田 玲奈	東京大学医科学研究所 Dana-Farber Cancer Institute USA	エピゲノムを標的とした前白血病に対する先制的治療の開発
中澤 世識	群馬大学大学院医学系研究科 Massachusetts General Hospital Cancer Center, Harvard Medical School USA	肺癌における分子標的薬に対する治療抵抗性のメカニズム解明
松原 崇紀	藤田医科大学医学部 The University of North Carolina USA	情動変化に伴う疼痛制御メカニズムの解明

## 2023年度海外留学奨学研究助成採択者

5名（550万円/年、2年交付）

（50音順、敬称略）

氏名	所属機関/留学先/国名	研究課題名
上田 潤	京都大学大学院医学研究科 Northwestern University USA	異なるサブタイプのドパミン作動性神経細胞に対するアルファシヌクレイン病理の影響
黒田 雅士	徳島大学 大学院医歯薬学研究部 シンシナティ小児病院医療センター USA	肥満病態におけるRNAダイナミクスの意義
笹林 大樹	富山大学附属病院 Department of Psychiatry, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School USA	統合失調症圏障害におけるマルチモダリティ脳画像解析
相田 泰毅	慶應義塾大学大学院理工学研究科 カリフォルニア工科大学 USA	新規リアノイド群とその類縁体の網羅的全合成およびリアノジン受容体結合能の解明
渡辺 佳織	京都大学大学院生命科学研究科 Whitehead Institute for Biomedical Research USA	タンパク質飢餓下での生殖細胞内サテライトDNAの選択的分解機構と適応的意義の解明